



親指と小指がんばる素足かな

渡部美香

例えば、歩きづらい砂浜を素足で歩いてごらんなさい。親指と小指の存在の大きさに気付くでしょう。黙っているが頼りになる奴らよ。



夏のマスクに隠れてる舌二枚ほど

南とんぼ

コロナのせいで、マスクは冬だけのものではなくなった。マスクをしていると人相も判別しにくいですが、悪人にとってはアラを隠せて好都合である。



扇風機新しければその風も

山本 賜

感じたことを書くのが俳句である。扇風機を新しくしたら風も新品になったと感じた。これは非科学的であるが、それこそが詩である。



襟立てて不良のつもり夏のシャツ

吉川正紀子

人間の心理とは不思議なもので、善人に見られたいと思ったり、ちょっとワルに見られたかったり。ささやかな変身願望をシャツの襟で叶えたね。



身重とも見え枇杷の種大きくて

桑田愛子

枇杷は種が大きくて果肉が少ないので裏切られたような気分になる。手に載せて眺めながら、実の大きさ、重みのほとんどは種だと気付いた。



噴水に合はす屈伸ストレッチ

田村米生

滑稽の要素の一つにナンセンスがある。ストレッチの屈伸を噴水に合わせる事の何が楽しいのか説明する必要はない。ずばり、ナンセンスの可笑しさ。